

# 研 創 新 聞

## 特集記事 地域活性化 「あがの家」創生プロジェクト 「公共建築物の木造化」の促進

平成22年10月、国では「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」(公共建築物木材利用促進法)を施行しました。以来4年以上が経過しますが、各自治体の現実には遅々として進んでいません。法律の基本方針では「戦後植林された人工資源が利用可能な段階を迎えているが、利用は低調で価格も低迷している」と指摘。

公共施設に木材を使う量を増やして林業を振興し、森林を育てることで二酸化炭素吸収による地球温暖化防止を目指しています。新潟県でも越後スギ・ブランド」と銘打って、一般住宅の補助金制度を導入し促進に努めています。

当地「あがの」地区は、森林に囲まれ、昔から建築に携わる技術者・各種職人の人材が豊富で、一つの



重要となるのが、木材生産から設計・施工まで「貫いた知識・技術を持つ」コーディネーターであり、川上から川下までの連携プレーです。

「越後にいきる家をつくる会」では、今年も、木工教室・瓦粘土細工・スギの丸太切り・物販等々、子供さん向けの楽しい遊び広場を準備します。お待ちしております。

会場・新潟市産業振興センター  
時間・午前9時30分午後3時30分



パパとママと妹と私、4人で「よいしょ、よいしょ」と声を掛け合って頑張りました。切った木は私の大事な宝物です。

日本の家はこれまで「つくっては壊す・捨てる」という「使い捨て」を続けてきました。そんな社会はもう限界です。いまあるものを上手く生かし、身の丈の豊かさ、新しい価値を生み出す「ストック型」の社会を目指すときにきています。これまでの「リフォーム」の様に古くなったモノを新しくするだけでなく、「生活スタイル」の刷新です。まずは、今住んでいる家をからんどの状態にイメージして、間取りやデザインをやり直し、必要に応じて断熱・防音・防火、耐震補強等を行って性能を強化する。豊かで楽しい暮らし方です。

10月25日(日)  
越後にいきる家をつくる会  
「共同組合まつり」  
会場を!



来年4月にはカフェ、山菜手作り雑貨販売等のコーナーを予定しています。

「耐震性能の基本」  
Part1  
新建築新聞社住まいの手引きより  
阿賀野市活性の「助」として  
阿賀野市では、耐震性能の向上を促進しています。

家は様々な構造形式があります。いずれを問わず、最も重要なのは自然災害に対する安全性です。特に日本列島は、地球を構成する十数枚の岩盤(プレート)の内、4つがせめぎ合う世界屈指の地震大国。そこでこのコーナーでは、耐震安全性の観点から構造をみていきます。



11年前の中越地震も今では過去のもの、忘れてしまった?

「割れないガラス」  
阿賀野市では、耐震性能の向上を促進しています。

現代の家は、ガラスを使っている家は、ほとんど無いと言えないではないでしょうか? ガラスはキレイで採光、断熱、遮音といった効果があります。しかし、ガラスの最大の弱点である衝撃による破損は多くの人が経験した事であると思います。もし、大事なお子さんやお孫さんがガラスで大ケガをしたとしたら・・・

最近、お年寄りがつまずいてガラスに手をつけてケガをしたという話もよく聞きます。そんな思いをする前に部屋の入り口、仕切りの建具のガラスを割れにくく、軽いアクリルに替えてみてはいかがでしょうか? ご家庭のケガ防止対策にお役に立てれば幸いです。

他にも、建具の開閉調整、部品交換、障子紙の貼り替え、等々、些細な事でも対応します。何時でもお電話下さい。

(株)山口建具製作所  
代表取締役 山口正樹  
阿賀野市水原586  
TEL0250-62-2178

家は様々な構造形式があります。いずれを問わず、最も重要なのは自然災害に対する安全性です。特に日本列島は、地球を構成する十数枚の岩盤(プレート)の内、4つがせめぎ合う世界屈指の地震大国。そこでこのコーナーでは、耐震安全性の観点から構造をみていきます。



小さい子供さんはガラスが割れるとは理解できません。事前の防護が必要です。

「私たちが頭と心で見える家づく」  
「永遠に愛され100年住む家」

株式会社 研創  
〒959-2205 新潟県阿賀野市寺社246  
TEL0250-68-3212・FAX0250-68-5271  
http://www.kenso.info/  
E-mail:info@kenso.info

読者の皆さまからの投稿欄  
阿賀野市少年硬式野球塾を  
立ち上げて

早いもので硬式野球塾を立ち上げて11年になりました。きっかけは少年野球に打ち込んで来た小学生が中学の部活に入り、何故か高校では野球部に入部しない傾向があるという事でした。そこで市内在中の野球指導経験者がボランティアで、中学三年生を対象の野球塾を立ち上げました。

まずは、靴や道具の整理整頓、挨拶など、公共施設使用のマナーからです。硬式の面白さやスピード感の体験で、高校野球アスミーズに移行できる様、サポートに徹しています。学校生活や部活動は子供達にとって、社会的小さな集団に属するわけで、その中で自律と自治の精神の

「あがの家」創生プロジェクト  
Part4  
「あがの家」創生プロジェクトの存在価値とは何ですか?

「あがの家」創生プロジェクトの有志が集い話し合い、既に三ヶ月が過ぎました。その間、根本理念である「何のために」「何を」「誰に」「何時」「何処で」「幾らで」「どの様に」、議論を重ねました。

このプロジェクトは、一企業の経営活動とは違い、志ある人達の集団です。根幹に「大義」が必要で、その都度、稲盛和夫の教え「動機善なりや、私心なかりしか」を、何れも自らに問いかけました。家を求める人の真の要望に答えられなければ、的外れになってしまう。



只今、「あがの家」一般会員募集のパンフレットの作成中です。地域住民の方どうぞご入会を。

「あがの家」創生プロジェクト  
「やすだ瓦」  
丸三安田瓦工業株

住宅を構成する様々な部材。雨、風、雪、熱など一年を通して最も過酷な条件にさらされるのが屋根材です。したがって屋根材は、それらの条件に耐える様々な機能が要求されるわけですが、阿賀野



全社員、思いを共有、一丸となって。その家には感動の物語が生まれます。

「あがの家」創生プロジェクト  
「やすだ瓦」  
丸三安田瓦工業株

の厳しい気候条件のもと、この地に育てられてきた屋根瓦が、「安田瓦」です。高温多湿の気候風土、時折り猛威を振るう「だし」の風、多量の積雪など阿賀野特有の外的環境から、そこに住む人々をしっかりと守り、快適な暮らしをお届けするために、先人から受け継ぐ様々な工夫が施されています。

雪国の重い雪に耐える瓦の強さを引き出し、冬の凍害を防ぐための還元焼成法。安田瓦は冬にその高い耐寒性・耐圧性を発揮します。また夏は、瓦の葺き合わせ部分に通気性があるため、外からの熱を直接野地板に伝えない構造もっています。

安田瓦は阿賀野の天然原料である粘土を使った、とてもエコな自然素材です。安田瓦の起源は、西暦1840年頃とされ、開窯以来約180年の歴史があります。私たちは創意工夫をもって、瓦造りの伝統しさと機能性を引き出し、これからは「瓦屋根」の波を守つていくことが使命であると考えています。

代表取締役 遠藤勇平  
阿賀野市保田6130-1

「あがの家」創生プロジェクト  
最先端の構造理論で  
基づく架橋

今風の家の柱と梁はピンで接合された構造です。ピンとは解り易くいうと、コンパスの根元の部分をつないでいる接合法です。離れないが回転します。従って、ピン構造はそのままではグラグラ動きまわります。

筋造

ピン構造

グラグラ

剛体

半曲点

剛体

動かない

動かない

「あがの家」創生プロジェクト  
「生かされる生」

我々が「生」について考える時、それは大まかに、「二つの要素生かされている部分」と「生きてようとする部分」で成り立っていることが理解されます。赤ん坊が子宮から出て、オギャーと生まれるのは自然の力です。

その後は、服を着せて寒さを防ぎ、食事を与えて飢えを癒さねばなりません。これは人の力です。成人した後は、心臓をはじめとする諸器官は、自然の力で動かされ、一方、彼は自分で食べ、肉体の栄養補給を自らしなければなりません。これを考えると「生」とは、先ず「天

意をもって生かされ、ついで自ら生きようとする「人為」がそれを補強しています。

すなわち、人間という生命体はつねに「天意と人為の狭間にたつている」のであります。ところで、圧倒的に多くの人は、「人為」の方に傾いているのです。例えば、病気になるば、薬を飲んだり、手術をしたりします。そして治れば、その薬や手術が治したと思うのです。しかし、それは明らかに間違っています。治るのは「自然治癒力」によるものであり、手当てはそれを補佐するものです。換言すれば、治癒力とは「生かされている部分」、「天意」であり、手当ては「生きようとする部分」、「人為」であります。